

説明的な文章を読もう①

年

組

番氏名

次の文章中の ア ・ イ ・ ウ の中に入る最もふさわしい言葉を書きなさい。なお、 ウ は十字以内で書きましょう。

睡眠すいみんを導き出すのは、メラトニンというホルモンです。メラトニンは、暗くなってから脳内に増え始め、目覚めの前に減少します。このメラトニンを作り出すのが、セロトニンというホルモンです。セロトニンは、太陽のぼり始めると脳内に出始めます。だれでも、よく晴れた日に外で遊んだり、スポーツをしたりした日は、心地よくつかれ、いつもよりぐっすり眠れた経験があると思います。これは、太陽の光と運動により、脳内にセロトニンが大量に出され、それが睡眠を導き出すメラトニンを大量に作り出したからなのです。

セロトニンは睡眠中にはほとんど出ませんし、メラトニンが出る量は光に大きく影響えいきやうされ、夜間室内ほどの明るさでも、出る量が減少してしまうことがわかっています。

わたしたちが、毎日生き生きとした生活を送るためには、よりよい睡眠をとることが欠かせません。そこで、よりよい睡眠をとるために、 ア というホルモンが体内にたくさん出るよう、昼間は太陽の光を浴びてスポーツなどをするよう心がけたいものです。また、 イ というホルモンは、光を浴びることで出にくくなるので、夜は ウ するよう努めましょう。

答え

ア

イ

ウ

【解答】 説明的な文章を読もう①

| | | |
|---|---|-----|
| 年 | 組 | 番氏名 |
|---|---|-----|

次の文章中の ・ ・ の中に入る最もふさわしい言葉を書きなさい。なお、 は十字以内で書きなさい。

睡眠を導き出すのは、メラトニンというホルモンです。メラトニンは、暗くなってから脳内に増え始め、目覚めの前に減少します。このメラトニンを作り出すのが、セロトニンというホルモンです。セロトニンは、太陽のぼり始めると脳内に出始めます。だれでも、よく晴れた日に外で遊んだり、スポーツをしたりした日は、心地よくつかれ、いつもよりぐっすり眠れた経験があると思います。これは、太陽の光と運動により、脳内にセロトニンが大量に出され、それが睡眠を導き出すメラトニンを大量に作り出したからなのです。

セロトニンは睡眠中にはほとんど出ませんし、メラトニンが出る量は光に大きく影響され、夜間室内ほどの明るさでも、出る量が減少してしまうことがわかっています。

わたしたちが、毎日生き生きとした生活を送るためには、よりよい睡眠をとることが欠かせません。そこで、よりよい睡眠をとるために、 というホルモンが体内にたくさん出るよう、昼間は太陽の光を浴びてスポーツなどをするよう心がけたいものです。また、 というホルモンは、光を浴びることで出にくくなるので、夜は するよう努めましょう。

答え

ア

イ

ウ

(例) できるだけ早く就寝 ・ 部屋を暗くして寝る など

説明的な文章を読もう（読むこと②）

年

組

番氏

次の文章は、千葉さんが最近関心がある「方言と共通語」について、調べたことをもとに書いた文章です。この文章を読んであとの問いに答えましょう。

「方言」をさがしてみよう

〇〇小学校 千葉 花子

【ア】 昨今、テレビなどの影響もあって、ある地方でだけつかわれる言葉が注目を浴びました。ある地方でだけつかわれている言葉を「方言」といい、日本全国どこでも共通して用いられる言葉を「共通語」というそうです。

【イ】 では「方言」には、どのような言葉があるでしょうか。

【ウ】 たとえば、「こんにちは」のことを調べてみると、地方によって、「まいどさん」「ごきげんさん」「こんちゅらごわした」「だんだんどーも」などと言うことがわかりました。

【エ】 言葉そのものがちがうのではなく、アクセントに違いがある場合もあります。アクセントとは言葉のどこを高く発音し、どこを低く発音するかというきまりのことです。たとえば「秋」という言葉は東京、名古屋、広島では「あ」を高く発音しますが、京都や四国では「き」を高く発音するそうです。

【オ】 言葉やアクセントだけでなく、文末表現が異なる場合もあります。千葉県のある地方では、「○○です。」のことを、「○○だっぺ」といった言い回しをすることがあります。これも方言の一種です。

【カ】 また、しっかりと聞いてほしいときに千葉県や茨城県の一部の地域では「しみじみしなさい」と言う言い回しをしますが「しみじみ」を国語辞典で引いてみると「心に深く通じ合うものがある様子」と書かれており、同じ言葉でも方言と共通語では使い方が意味が異なる場合があります。

【キ】 たとえば、ジャン（ではないか）ヤッパシ（やはり）といった言葉は、主に若い人たちの間で使われる方言で、年配の人の間ではあまり使われないうです。

【ク】 地方独特の言い回しには温かみや、親しみを感じる一方で、他の地方の人には通じにくいという欠点もあります。

【ケ】 また、地方色の強かった方言ですが、近年は交通網や情報網の発達により、その地方でだけ使われてきた言葉が広くつかわれるようになりました。言葉というのはまさに時代とともに生きて変化しているとも言えそうです。

【コ】 では、方言と共通語はどのように使い分けられるのでしょうか。その場合は共通語をテレビのニュースは日本全国のいろいろな人を対象としており、その場合は共通語を用いることが適切でしょう。しかし、同じ地方の友達と久しぶりにあったときに思わず飛び出す言葉は A でしょう。

【カ】 このように、それぞれ場面や相手を考えて使い分けることが大事だといえます。みなさんの地方にはどのような方言がありますか。また、それを用いるのは主にどのような年代の人ですか。これを機にぜひ、身の回りの言葉について調べてみませんか。

【キ】 また、同じ地方であっても、年代によって使われる言葉が異なる場合もあるようです。

問一

①「方言」とはどのような言葉だと説明していますか。本文から十四文字でぬき出しましょう。

| |
|-------|
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |

言葉

②「共通語」とはどのような言葉だと説明していますか。本文から十七文字でぬき出しましょう。

| |
|-------|
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |

言葉

問二 「方言」とは、言葉そのものがちがうのではなく、アクセントにちがいがある例として何という言葉をあげていますか。漢字一文字で書きましょう。

| |
|-------|
| ----- |
|-------|

問三

①「方言」のよさについて本文では、どのように述べていますか。

| |
|-------|
| ----- |
|-------|

②「方言」の欠点についてはどのように述べていますか。

| |
|-------|
| ----- |
|-------|

問四 最後の-----で囲んだ一文は、文章中のア、オのいずれかに入ります。最も適切な場所をア、オから一つ選び、記号で答えましょう。

| |
|-------|
| ----- |
|-------|

問五 文章中のAには「方言」「共通語」のいずれかが入ります。ふさわしいと考える言葉を書きましょう。

| |
|-------|
| ----- |
|-------|

問六 方言と共通語はどのように使い分けることが必要と述べていますか。九文字でぬき出しましょう。

| |
|-------|
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |
| ----- |

使い分ける

【解答】 説明的な文章を読もう（読むこと②）

問一

① 「方言」とはどのような言葉だと説明していますか。本文から十四文字でぬき出しましょう。

ある地方にだけつかわれている言葉

② 「共通語」とはどのような言葉だと説明していますか。本文から十七文字でぬき出しましょう。

日本全国どこでも共通して用いられる言葉

問二 「方言」とは、言葉そのものがちがうのではなく、アクセントがちがいがある例として何という言葉あげていますか。漢字一文字で書きましょう。

秋

問三

① 「方言」のよさについて本文では、どのように述べていますか。

地方独特の言い回しには温かみや、親しみを感じる

② 「方言」の欠点についてはどのように述べていますか。

他の地方の人には通じにくい

問四

最後の^{かこ}で^{かこ}で囲んだ一文は、文章中の^アと^オのいずれかに入ります。最も適切な場所を^アと^オから一つ選び、記号で答えましょう。

オ

問五

文章中の^Aには「方言」「共通語」のいずれかが入ります。ふさわしいと考える言葉を書きましょう。

方言

問六

方言と共通語はどのように使い分けることが必要と述べていますか。九文字でぬき出しましょう。

場

面

や

相

手

を

考

え

て

使い分ける

文学的文章を読もう (読むこと③)

| | | | |
|---|---|---|----|
| 年 | 組 | 番 | 氏名 |
|---|---|---|----|

◇ 村田さんのクラスでは、新美南吉(にいみなんきち)の作品を読み合い、その作品のよさを紹介する活動を計画しています。村田さんのグループは『あめだま』という作品についてクラスみんなに伝えることにしました。

春のあたたかい日のこと、わたし舟にふたりの小さな子どもをつれた女の旅人のりました。舟が出ようとすると、「おおい、ちよつとまってくれ。」

と、どてのむこうから手をふりながら、さむらいがひとり走ってきて、舟に飛びこみました。舟は出ました。

さむらいは舟のまん中にどっかりすわっていました。ぼかぼかあたたかいので、そのうちにいねむりをはじめました。

黒いひげをはやして、強そうなさむらいが、こっくりこっくりするので、子どもたちはおかしくて、ふふふとわらいました。おかあさんは口に指をあてて、「だまっておいで。」

いいました。さむらいがおこつてはたいへんだからです。

子どもたちはだまりました。しばらくするとひとりの子どもが、「かアちゃん、あめだまちようだい。」と手をさしだしました。

すると、もうひとりの子どもも、「かアちゃん、あたしにも。」といいました。

おかあさんはふところから、紙のふくろをとりだしました。ところが、あめだまはもう一つしかありませんでした。

「あたしにちようだい。」
「あたしにちようだい。」

ふたりの子どもは、両方からせがみました。あめだまは一つしかないのです、おかあさんはこまってしまいました。

「いい子たちだからまっておいで。むこ

うへついたら買ってあげるからね。」

といってきかせても、子どもたちは、ちようだいよオ、ちようだいよオ、とだだをこねました。

いねむりをしていたはずのさむらいは、ぱっちり目をあけて、子どもたちがせがむのを見ていました。

おかあさんはおどろきました。いねむりをじやまされたので、このおさむらいはおこっているのにちがいない、と思いました。「おとなしくしておいで。」

と、おかあさんは子どもたちをなだめました。けれども子どもたちはききません。するとさむらいが、すらりとかたなをぬいて、おかあさんと子どもたちのまえにやってきました。

おかあさんはまっさおになって、子どもたちをかばいました。いねむりのじやまをした子どもたちを、さむらいがア

と思ったのです。
「あめだまをだせ。」
とさむらいはいいました。

おかあさんはおそろおそろあめだまをさしだしました。

さむらいはそれを舟のへりにのせ、かたなでばちんと二つにわりました。

そして
「そおれ。」
とふたりの子どもにイ

① それから、またもとのところに帰って、こっくりこっくりいねむりはじめました。

【『あめだま』新美南吉】

問一 文中の「ア」「イ」には、それぞれどのような言葉が入るでしょう。正しいと思う組み合わせを一つ選びましょう。

- () ア しっかりつける イ ほめてやりました
- () ア きりころす イ わけてやりました
- () ア なだめる イ なげつけました
- () ア ほめる イ 買ってやりました

問二 村田さんたちは、次のように発表の原こうを作っています。次の【原こうの案】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【原こうの案】

この話のおもしろさは、二つ考えられます。
一つ目は、母親のきん張感が高まっていく様子から、最後の場面で一気にどんでん返しがくるところだと思います。
二つ目は、刀を持ったこわそうなおさむらいが、ゆかいにえがかれているところです。このゆかいなえがかれ方が、新美南吉らしいほのぼのとした作品のふんい気につながっていると感じました。
・・・

(1) 本文中の①——は、原こうの中の「一つ目」「二つ目」のどちらのおもしろさにかかわりがありますか。あとの□に書きましょう。

①それから、またもとのところに帰って、こっくりこっくりねむりはじめました。

□ つ目のおもしろさ

(2) 新美南吉は、四年生で学習した『ごんぎつね』の作者でもあるので、読み比べてみました。そして原こうに次の文も入れようと思いました。次の文は、「一つ目」「二つ目」のどちらに入りますか。あとの□に書きましょう。

『ごんぎつね』の中で、最後にごんがうなずいた場面と似ています。

□ つ目

文学的文章を読もう（読むこと③）

【解答】

問一

ア きりころす

イ

わけてやりました

の組み合わせ

■解説

アの前におかあさんが「まっさおになって、こどもたちをかばいました」と書いてあります。「まっさお」になって「かばう」という動作は、こどもに危険がせまっているからに他なりません。また、その直前で「さむらいが、すらりとかたなをぬいて」とあることから、考えられる危険は、「きりころす」されることでしょう。

イ は、「そあれ。」という言葉は、「ほめてや」る、「なげつけ」るときのことばとしてはふさわしくないものです。「買ってや」るのは舟の上なので無理です。したがって、こわいさむらいが、おそろしいかたなでしてやったことはぱちんと二つに「わけてや」った、ということでしょう。

問二 (1)

二 つ目のおもしろさ

■解説

おかあさんはじめ、周囲のひとたちはおさむらいをこわく感じていたことでしょう。このおさむらいが、かたなをすらりと抜き、ふたりにあめをわけてつけたあと、つまり周囲をふるえあがらせたあと、またこっくりこっくりねむりはじめた様子は、間が抜けているでしょう。このゆかいさを取り上げています。

(2)

一 つ目

■解説

『あめだま』は、最後の最後で緊張がとけ、和やかにお話が終わります。一方『ごんぎつね』は、ごんを鉄砲で撃った兵十が、くりなどをもってきたのがごんだと最後の最後に知る、というなんとも切ない終末です。どちらも、最後に読者をゆさぶる大きなどんでん返しが仕組まれているのです。一方は和やかな終わり方でもう一方は悲しい結末といううちがいがあります。最後の場面で一気にどんでん返しがかかるという点では二つのお話は似ていると言えそうです。

文学的な文章を読もう（読むこと④）
詩の表現を説明したり、考えたりしたことを交流しよう

年

組

番

氏名

◇ 北川さんの学級では、金子みすゞの「ふしぎ」を読んで考えたことをグループで交流することにしました。

【詩一】

ふしぎ

わたしはふしぎでたまらない、
黒い雲からふる雨が、
銀にひかっていることが。

わたしはふしぎでたまらない、
青いくわの葉食べている、
かいこが白くなることが。

わたしはふしぎでたまらない、
たれもいじらぬ夕顔が、
ひとりではらりと開くのが。

わたしはふしぎでたまらない、
たれにきいてもわらってて、
あたりまえだ、ということが。



【詩二】

四月

新しいご本、
新しいかばんに。

新しい葉っぱ、
新しいえだに。

新しいお日さま、
新しい空に。

新しい四月、
うれしい四月。



問一 交流の中で、【詩一】には特ちょう的な表現がいくつかあることがわかりました。あなたが見つけた【詩一】の特ちょう的な表現についてグループで交流するつもりで、北川さんのまねをして書きましよう。

【北川さんが見つけた特ちょう的な表現】

「わたしはふしぎでたまらない」ということばが四つのまとまりの初めにくり返し出てきます。同じことばをくり返すことで、詩にリズムが出ていると思いました。

【あなたが見つけた特ちょう的な表現】

問二 北川さんのグループは【詩一】と【詩二】を比べて読んで、考えたことを交流しました。あなたは、どのようなことを考えましたか。次の条件に合わせて書きましよう。

〈条件〉

- 詩の内容や表現の仕方などについて、二つの詩の共通点を取り上げて書くこと。
- 左のわくにおさまるように、文字数を考えて書くこと。

【解答と解説】

問一

【あなたが見つけた特ちょう的な表現】

四つのまとまりの最後がすべて「ことが。」で終わっています。同じことばで終わっていることで、詩にリズムが出ていると思いました。

右の解答例は「ことが。」ということばで終わっている特ちょうについて書いたものです。この他に、この詩では「倒置法」を使って表現しているという特ちょうもあります。この特ちょうをとらえて書くときぎのような解答になります。

【あなたが見つけた特ちょう的な表現】

それぞれのまとまりの最後の一行は「ふしぎでたまらない」の主語になっています。

主語と述語の順番をかえることで（倒置法を使うことで）「ふしぎでたまらない」という思いが強調されています。

※解答では「段落」を「四つのまとまり」ということばで書きました。「段落」ということばを使って書いてもよいです。

問二

四つ目のまとまりの部分で詩の題名のことばを使って、一番伝えたいことが書かれていることが共通している。

右の解答例の他に、次のような解答も考えられます。

○【詩一】では「わたしはふしぎでたまらない」、【詩二】では「新しい」というように、同じことばをくり返して使っていることが共通している。

○「倒置法」で書かれていることが共通している。

○どちらも四つのまとまりで書かれている。

※文字数は問われていないので、解答の文章の長短は問いません。

二つのすいせん文を比かくして読もう（読むこと⑤）

年

組

番 氏名

◇ 青木さんの学級では、宮沢賢治が書いた「雪わたり」を読んだあと、それに関連する本を読み、読み方のすいせん文を書くことにしました。次の文章は、「青木さんが書いたすいせん文」と【田中さんが書いたすいせん文】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【青木さんが書いたすいせん文】

わたしは、「雪わたり」を読んで、きつねと人間とのかかわりについて興味をもちました。そこで、きつねと人間のかかわりが題材の本を集めて読みました。その中で、みなさんにしようかいたしたい本が新美南吉の「手ぶくろを買いに」です。

「雪わたり」では、きつねが人間の子もたちに、「きつねは、人間に悪さやいたすらずらをする動物だと決めつけられてきた」と伝えることから物語が始まります。「手ぶくろを買いに」では、母きつねが子ぎつねに、「人間は、きつねに手ぶくろを売ってくれないばかりか、きつねをつかまえておりに入れてしまう、こわいものだ」と伝えます。しかし、手ぶくろを買いに町へ出かけた子ぎつねは、人間のやさしさにふれます。最後の母きつねの言葉「ほんとうに人間はいいものかしら」が印象的です。

どちらの物語も、きつねと人間は、初めはお互いをよく思っていないのですが、最後には心が通じ合う場面があり、心が温まる物語です。

きつねと人間のかかわりを題材にした本はたくさんあり、昔からきつねと人間は親密な関係だったということがわかりました。また、同じ題材の作品を読むことで、にている点やちがう点と比較しながら読むことができ、読書の楽しみ方が増えました。

みなさんは、物語のテーマや題材に注目して本を読んだことがありますか。そのような経験がない人は、ぜひこの読み方をおすすめします。物語に書かれているテーマや題材について、知識を増やしたり、深く考えたりすることができるはずです。

【田中さんが書いたすいせん文】

みなさんは、物語の作者に注目して本を読んだことがありますか。そのような読み方をしたことはない人に、同じ作者の作品をいろいろ読むことをおすすめします。

わたしは、「雪わたり」を読んで、げんそう幻想の世界の入口の表現の仕方みかよくに魅力を感じました。この魅力にひきつけられ、他の宮沢賢治の作品では、どのように表現しているのが気になり、宮沢賢治の作品をいくつか読みました。その中で特に心に残ったのは「注文の多い料理店」です。同じ作者の本を読むことでお気に入りの作品に出合うことができました。

「雪わたり」では、「お月様は空に高く上り、森は青白い煙に包まれています」という一文が幻

想の世界（きつねの幻灯会）への入口になっていると思いました。「注文の多い料理店」は、東京からやってきたハンターが、「西洋料理店 山猫軒」で、猫に食べられそうになる、という話です。この物語では、「風がどうと吹いてきて、草はざわざわ、木の葉はかさかさ、木はごんごんと鳴りました」という一文が幻想の世界（山猫軒）への入口になっていることに気づきました。どちらの作品も、宮沢賢治の思い（信じる心を忘れてはいけない。欲張りすぎてはいけない。）が込められているように思います。

その他、宮沢賢治の作品をいくつか読んでみると、声や音、また様子をリズムミカルなカタカナ言葉で表わした表現が多いことにも気づきました。

みなさんにも、興味をもった作者の作品をいろいろ読んでほしいと思います。作者独特の表現やしかけのおもしろさに気づいたり、作品にこめられた作者の思いを深く考えたりすることができそうですよ。

問一 中村さんは、二人のすいせん文を比べて読み、わかったことをノートにまとめました。【ノート】の **ア** ・ **イ** の中に入るふさわしい内容を、本文中の言葉を使って書きましよう。

【ノート】

| | | |
|--------------------------------------|--|-------------------|
| 田中さんが書いたすいせん文 | 青木さんが書いたすいせん文 | |
| 宮沢賢治作 「注文の多い料理店」 | 新美南吉作 「手ぶくろを買いに」 | どのような本を紹介しているか。 |
| 物語の作者に注目して、本を読む読み方 | ア | どのような読み方をすすめているか。 |
| ○同じ作者の作品を読むことで、お気に入りの作品に出会うことができるから。 | ○同じ題材の作品を読むことで、にている点やちがう点を比べながら読むことができるから。 | すすめる理由 |
| イ | イ | |

答え
ア

読み方

答え
イ

問二 中村さんは、二人のすいせん文を比べて読み、二人の読み方にはちがいがあ
ることに気づきました。あなたなら、二人のすいせん文のどちらの読み方をしたい
と思いますか。どちらかを選び、選んだ理由を四十字以内にまとめて書きましよう。

答え

| |
|--|
| |
|--|

さんの読み方をしてみたいです。その理由は、

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

からです。

【解答と解説】

問一 中村さんは、二人のすいせん文を比べて読み、わかったことをノートにまとめました。【ノート】の ア ・ イ の中に入るふさわしい内容を、本文中の言葉を使って書きましよう。

■解答例

ア

物語のテーマや題材に注目して本を読む 読み方

イ

作者独特の表現やしかけのおもしろさに気づいたり、作品にこめられた作者の思いを深く考えたりすることができる

■解説

アは、青木さんのすいせん文の「みなさんは、物語のテーマや題材に注目して本を読んだことがありますか。そのような経験がない人は、ぜひこの読み方をおすすめします。」の二文に着目し、内容をまとめて書くといよいです。

イは、田中さんのすいせん文の中の、「作者独特の表現やしかけのおもしろさに気づいたり、作品にこめられた作者の思いを深く考えたりすることができまよう。」と書いてある部分に着目ましよう。

問二 中村さんは、二人のすいせん文を比べて読み、二人の読み方にはちがいがあることに気づきました。あなたなら、二人のすいせん文のどちらの読み方をしたいと思いますか。どちらかを選び、あとの条件に合わせて、選んだ理由を書きましよう。

■解答例

青木さん

の読み方をしてみたいです。その理由は、

同じ題材の作品をいくつか読み、にている点やちがう点を比べながら読んでみたい(三十七文字)

からです。

例

物語に書かれているテーマや題材について知識を増やしたり、深く考えたりしたい(三十七文字)

からです。

例

私は犬が好きなので、犬が冒険したり活やくしたりする物語をいろいろ読みたい(三十六文字)

からです。

■解答例

田中さん

の読み方をしてみたいです。その理由は、

好きな作者の作品をいくつか読み、その中からお気に入りの作品に出会いたい(三十四文字)

からです。

例

作者独特の表現やしかりに気づいたり、作品にこめられた思いを深く考えたりしたい(三十八文字)

からです。

例

椋鳩十の作品が好きなので、もっといろいろな作品を読んでお気に入りを見つけたい(三十八文字)

からです。

■解説

青木さんの読み方か、田中さんの読み方か、どちらか選り、理由と組み合わせで、限られた字数の中でまとめて書いてあれば正解です。ただし、組み合わせがちがっている場合は、不正解です。